

月刊

ENGO

8月号

2013年8月1日

カトリック大阪大司教区ENGOプロジェクト

発行責任者：松村繁彦

連絡先：TEL：090-5258-5704

(平日 18時～21時)

FAX：06-7494-9845

e-mail: engo@osaka.catholic.jp

復興支援全国担当者会議から

福島県に主眼を置いて！

去る6月25日～27日に東日本復興支援全国会議が行われた。

全16教区担当者と修道会管区長会から復興支援担当者が一堂に集まり、3コース・Aコース 岩手宮古ベースからの南下→郡山・Bコース 会津若松・福島原発南地域→郡山・Cコース 会津若松・福島原発北地域→郡山のそれぞれに分かれて視察し、郡山教会で合流の後、講演会や各地の復興に向けた活動の歩みなどが分かち合われた。



最終日、郡山教会での講話前の様子

ENGOプロジェクトからも神田・春名・松村の3司祭が参加し、現状の把握を行った。普段は岩手・宮城県津波被害に主眼を置いてお知らせしてきましたが、今回は福島県の放射能被害に視点を置き、ここにその状況を皆さんと共有したいと思う。

Cコース参加の春名神父からの報告

「福島県は海側から浜通り、中通り、会津の3つの地域に分かれています。私たちは会津から福島県に入り、中通り、浜通りと視察しました。

①会津若松教会で福島市内から自主避難されている方々のお話を伺いました。福島市内でも場所によってはホットスポットと呼ばれる放射線量が高い地域があります。

そのような場所で子育てをすることに不安を感じている方々が、会津に避難されています。しかし、実際に津波や放射線の被害を受けても福島に居住し続けている人たちのことを考えたら、「我慢して福島市内に住むべきではないか」と会津の人から言われるそうです。それが自分への圧力や非難となるため、学校や地域では福島市から来たと言えないと心労を訴えられました。

②福島市に移動し松木町教会の信者さんたちや原発にほど近い浪江町から避難されている方々のお話を伺いました。浪江町で被災された方々が現在、福島市内の仮設住宅で暮らしておられますが、松木町教会の信者さんたちが浪江町の方々を支援しておられます。浪江町の方々はいつ故郷に帰れるか分からない状況の中で、非常に苦しい生活をされています。2年以上家に帰っていない現状で建物は傷み、ネズミなどの被害も多く、もう住めないのではないかと考えておられる方もおられました。松木町教会の信者さんたちは、自らも放射線の不安を抱えながら生活しておられますが、一生懸命浪江町の皆さんを支援しておられます。ある信者さんは、「今、一番大きな問題は風評被害で、自主避難している人たちが福島市に帰ってこないそれは無くならない」と話されました。同じ福島県で被災者間の温度差が非常に大きく、矛盾を抱えたまま生活されている現実を見ました。



依然復興が進まない浪江町は荒廃したまま

③最後に浜通りに移動しカリタス原町ベースを訪問しました。原町ベースがある南相馬市は、浪江町に隣接している町で、原発からも近い場所にあります。報道がだんだん減ってきて、原発の被害を忘れさせ、小さなものにしようとしているのではないかと言われる方もおられました。その後、浪江町に移動し、原発から約 5km の所まで行きました。ついこの間まで立ち入りが制限されていたその地域は、打ち上げられた漁船、流された車など、2 年前の津波の被害がそのまま残されていました。」



ゴーストタウンの双葉郡榎葉町。除染がまだのため、人はだれも住めない。

今回の視察で私たちが出会った、人々は、

- I 福島県内から避難された人々
 - ・子どもへの放射能の影響を考慮して
 - ・津波で家がなくなって
- II 避難を受け入れる側の人々
 - ・避難者を受け入れられない
 - ・支援する
- III 福島県で居住し続ける人々
 - ・今の生活から離れられない
 - ・福島復興を頑張る人（農家）

それぞれの立場の思いは違う。接点が見えて来ない。お互いに手を取り合うことができない状況の中で、一番の中心は放射能（原発）問題であるが、同等に人と人の問題を強く感じた。特に被災者への支援金支給に伴い、その差より感情論が強く問題となっている。私たちキリスト者ができることは、個々の人に寄り添い、その痛みを共に一緒に受け止めることだけしかできないかもしれません。津波の被害とは違う難しさを痛切に感じた視察となりました。寄り添って生きることが常に問われていることを実感した。（春名・松村）

ボランティア支援制度

間もなく震災から2年半。月を追うごとに、被災地の各ボランティアベースではボランティアの数が減少しています。

大阪教区 ENGO プロジェクトでは下記の表に従い派遣者に対して事前面談、及び、事後報告書を提出することで交通費等の補助を、皆さまの寄付金から拠出させていただき、多くの方が被災地に赴きやすいようにしています。早速この制度を利用して現地に赴いて下さる方も増え始めました。どうぞこの機会に御利用下さい。

ボランティア支援制度

（交通費等補助支援制度）

1 週間（往復の日程を含み、
実質作業 **5日**以上）
条件：①事前申し込み＆面談
②事後報告書提出
補助： **30,000円**
（報告書提出後振込）

2 週間（往復の日程を含み、
実質作業 **10日**以上）
条件：①事前面談＆面談
②事後報告書提出
補助： **50,000円**
（報告書提出後振込）

*問合せ・申込みは ENGO プロジェクトまで
面談・対応：ENGO プロジェクト担当司祭
（神田神父・松村神父・春名神父）

パネルの貸出し

ENGO プロジェクトはパネルの貸し出しも行っています。ご利用を希望の方はお気軽にご連絡ください。



（A3 版 28枚セット）

*尚、震災当時を忘れない事を目的に作成されましたので、現在の状況を映したものはございません。